

◇会議報告◇

日中韓三カ国会議報告

ASBJ 専門研究員 平本 将也
 ASBJ 専門研究員 山本 雅実
 ASBJ 専門研究員 齊藤 啓

1. はじめに

2022年11月9日に、第22回日中韓三カ国会計基準設定主体会議（以下「本会議」という。）が、ウェブ会議で開催された。本会議は、東アジアの近隣三カ国の会計基準設定主体者間で、内外の様々な問題について認識を共有し、意見交換を行うことを目的としてスタートしたものである。本会議には、企業会計基準委員会（ASBJ）の川西喜委員長、中国会計準則委員会（CASC）の Juan Zhang 副司長、韓国会計基準委員会（KASB）の Eui-Hyung Kim 委員長をはじめとする三カ国の代表者が参加し、香港及びマカオからも、香港公認会計士協会（HKICPA）の Gary Stevenson 財務報告準則委員会委員長及びマカオ会計士委員会の Pou Man Ng 委員が参加した。また、国際会計基準審議会（IASB）からは、Jianqiao Lu 理事、鈴木理加理事及び Patrina Buchanan テクニカル・スタッフ（2022年12月にIASB理事に就任予定）が参加した。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。

	議 題	担 当
1	開会の挨拶	川西委員長（ASBJ）
2	IASBの挨拶	鈴木理事（IASB）
3	会計基準に関する動向の近況報告	CASC KASB HKICPA ASBJ
4	テクニカル・セッション1 ● 基本財務諸表	CASC

	議 題	担 当
5	テクニカル・セッション2 ● 暗号資産	KASB
6	テクニカル・セッション3 ● リース	ASBJ
7	次回日中韓三カ国会議に向けた議論	
8	閉会の挨拶	川西委員長 (ASBJ)

3. テクニカル・セッションにおける主な議事概要

(1) 基本財務諸表 (CASC)

本セッションでは、CASC より、IASB が 2022 年 10 月に行った「全般的な表示及び開示」に関する的を絞ったアウトリーチの質問に対して、利害関係者から聞かれた意見などについて詳しい説明がなされた。参加者からは、アウトリーチの質問に対する各法域における対応状況、持分法で会計処理される関連会社及び共同支配企業から生じる収益及び費用や為替差額の分類等についての意見が交わされた。

(2) 暗号資産 (KASB)

本セッションでは、KASB より、暗号資産をテーマとして、法域における取引状況や会計上の取扱い、他の法域における会計基準開発の状況を調査した結果及び開示に関するタスク・フォースの取組み状況などについて詳しい説明がなされた。参加者からは、各法域における暗号資産取引を巡る環境及び会計処理上の課題やそれに対する対応状況などについて意見が交わされた。

(3) リース (ASBJ)

本セッションでは、ASBJ より、リースをテーマとして、日本基準の開発状況、基準開発に係る審議の中で識別された IFRS 第 16 号「リース」(以下「IFRS 第 16 号」という。)の要求事項の適用に関する課題とそれに対する検討状況などについて詳しい説明がなされた。参加者からは、各法域における IFRS 第 16 号の適用状況及びその際に生じた課題と対応状況について説明がなされた。

4. その他

本会議の閉会に当たり、ASBJ の川西委員長より、本会議の参加者に対して謝意が示された。次回の会議は、2023 年後半に中国で開催することで合意された。また、新型コロナウイルス感染症の状況によって、再度ウェブ会議形式で開催する必要がある場合も、中国が主催する予定である。



以上